

## 2007（平成 19）年度活動報告

部会長 狩野 啓子

### 前史

- 2004 年 4 月 筑後文化資料室設置。
- 5 月 御井図書館運営委員会の中に「筑後文化資料室作業部会」が設置され、各方面への寄贈の依頼・資料収集・整理などの活動を開始した。
- 7 月 資料保存施設（福岡県立図書館・九州大学文書館・福岡市博物館・野田宇太郎文学資料館）視察研修を実施。
- 2006 年 6 月 Kプロジェクト設立。筑後文化資料室の資料収集の過程で、虫害対策の必要性を痛感して、防虫効果を有する資料保存用品の開発を開始した。その際に、地域との連携を目指すこととした。Kプロジェクトは学内有志のボランティアの研究団体である。
- 2007 年 1 月 文化財保存科学研究部会設立。  
上宮健吉先生を比較文化研究所特別研究員として迎える。
- 3 月 久留米大学比較文化研究所文化財保存科学研究部会と九州ミュージアム IPM 研究会との第 1 回合同研究会を九州国立博物館で開催。この内容は「朝日新聞」に報道された。

(2006 年 12 月 比較文化研究所運営委委員会提出資料)

### プロジェクト研究について

私たちは久留米大学の教職員で作ったボランティアの研究団体である K プロジェクトと連携させて、久留米大学の比較文化研究所の研究プロジェクトの一環として、文化財保存の問題を検討してきました。図書資料の生物的劣化の要因の一つ、昆虫による紙資料の加害、なかでもシバンムシ類の和紙への加害を回避し、長期保存に適した各種の用途の紙の開発を考えています。つまり書いて記録に残す紙や、その他の防虫の用途の紙であります。紙の害虫といえば、実際的にはシバンムシが最も重要です。シミやゴキブリやチャタテムシ、シロアリなどはシバンムシに比することはできません。

北海道を除く我が国では、和書の害虫としてフルホンシバンムシとザウテルシバンムシの 2 種のシバンムシが特定されます。国外では、パルプ紙、つまり洋紙に日本にもいるケブカシバンムシ、ジンサンシバンムシ、あるいは日本には分布しないイエシバンムシの加

害が知られているそうです。このことは、洋紙と和紙の素材が違うからという理由も考えられますが、我が国では何百年も保存された紙、つまり和紙にいつしかシバンムシが侵入し、明治以降の洋紙はすぐに劣化してしまうので、虫のつく間もなく、ボロボロになるということかと思えます。

さて、いまやアーカイブズとして電子化情報の時代に、アナログの保存紙とはと、奇異に感じる方もあるかと思えます。情報メディアとして記録する紙の利用は増加の一途で、パルプ紙として膨大な森林資源が使われ続けております。しかし、それらの文書は、100年も保存が利かない使い捨ての用途でしかありません。長く保存できる紙は今もなお必要であります。つい最近、文化財や博物館の所蔵品を毒性のつよい燻蒸剤で処理することが禁止されました。これまでのような定期的に燻蒸すればよいという時代から、虫が来ない環境、虫の付かない紙とか、虫を忌避する恒常的な方策が注目されるようになりました。そしてそのような用途の紙は燻蒸剤や農薬のない時代に自然の産物で工夫して作られていた古代の紙に求められるのかもしれませんが。

和紙、織物、木工竹製品には、わが国に固有の伝統文化があり、自然の文化として豊かな美の世界の精神的な拠り所となっています。ヒトが自然と共生して生きてゆかねば、その精神的風土は残せないと言われます。私たちのプロジェクト研究では、将来的には和紙に止まらず、科学的に検証しながら自然を生かした文化財保存用品の開発をしていきたいと考えています。

## 2007年度の年次報告

- 4月 研究会実施。また、クララの実験的栽培を八女の近藤さんに依頼。
- 5月 狩野がローマで MARIA VERA QUATTRINI さん（東洋美術の修復専門家）と意見交換。
- 6月 研究会実施。八女の近藤さん訪問、クララの栽培を視察。
- 7月 特許仮申請。
- 8月 研究会実施。  
第2回九州ミュージアム IPM 研究会に参加（九州国立博物館）。  
松枝工房（藍生庵）見学。
- 9月 九州国立博物館開館2周年記念第2回東アジア紙文化財修理シンポジウム ―文化をつたえる紙の路― に参加。  
狩野がフリア美術館、サックラー美術館を訪問（ワシントンD. C.）。  
松枝工房（藍生庵）見学。
- 10月 第3回九州ミュージアム IPM 研究会に参加（九州国立博物館）。

- 11月 多久視察。細川章さんからお話を伺う。
- 12月 研究会実施。  
外国の高校生約10名、筑後文化資料室作業室を見学。文化財保存用の開発された製品について説明。
- 1月 研究会実施。
- 2月 第5回九州ミュージアム IPM 研究会に参加（九州国立博物館）。
- 3月 久留米大学比較文化研究所文化財保存科学研究部会と九州ミュージアム IPM 研究会との第2回合同研究会を九州国立博物館で開催。

（文責 狩野 啓子）